

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554		
法人名	株式会社ユニマツト そよ風		
事業所名	甲府ケアセンターそよ風		
所在地	甲府市富竹3-3-5		
自己評価作成日	平成24年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームではあるが、医療面には力を入れており、また、ご家族の介護負担の軽減を図る目的で、内科・皮膚科の往診があり必要な方には職員付き添いの精神科受診もしており、身体の変化に迅速に対応している。職員は利用者様を家族のように思い、のんびりと家にいるような気持ちで過ごしていただけるように気を配り支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにスーパーマーケットなどがある街中の事業所である。グループホームは2階で、1階には同会社のデイサービスがあり、機械入浴や大きな浴槽を利用する事が出来る。グループホームは事務所を挟んで2つのユニットになっている為に夜勤者は協力し合せて安心である。また、中庭には居間から自由に入出入りが出来て外気浴の機会も多い。「明るく、元気に」を事業所の特徴として利用者の笑顔が引き出せる様な支援に心がけている。介護度1から介護度5までの利用者が生活する中で、食事時など一人ひとりの残っている機能を引き出している。今は家族からの希望があり、ターミナルケアへの取り組みを始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 甲府ケアセンターそよ風

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で作成した「そよ風憲章」という理念があり、それに基づいた支援ができるよう、全職員の意識の共有を図るようにしている。	会社で作成した「そよ風憲章」という理念があり、それに基づいた支援ができるよう、全職員の意識の共有を図るようにしている。	理念は朝礼時に唱和して意識づけをしている。また、月1回のフロア会議や引継ぎノートを活用して全職員が共有出来る様にしている。その理念にそって明るく元気ですこやかなヒューマンライフを目指す支援に日々心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	すぐご近所から入所された利用者があり、隣のお家の方が様子を知らせに来てくださったりし、家にいる時と同じようなお付き合いをされている。また近隣の清掃を職員が毎月行っており、地域に溶け込む努力をしている。	利用者のご主人やご家族の面会が毎日あり、在宅と同じような雰囲気でも過ごされている。また両フロアとも、散歩などの時は地域の方が気さくに声をかけてくださり、お花を頂いたりすることもある。	自治会に加入している。神社の夏祭りに参加したり、職場体験の学生や介護の実習生も受け入れている。また、近くのスーパーからは買い物カートとワゴンを借りて利用者や食材の買い出しに行くなど日常的に地域との関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は認知症サポーター研修を実施し、ご家族や近隣の方の参加もあり、認知症についての理解が少しは深まったように思う。またグループホームという施設の特性も理解していたように思う。	今年度は認知症サポーター研修を実施し、ご家族や近隣の方の参加もあり、認知症についての理解が少しは深まったように思う。またグループホームという施設の特性も理解していたように思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	包括、地区民生委員、家族会代表、グループホームの職員で2ヶ月に一度開催。運営推進会議で出た意見はすぐフロアの職員へおろし、改善できるところは改善し、より良い介護につなげている。	包括、地区民生委員、家族会代表、グループホームの職員で2ヶ月に一度開催。運営推進会議で出た意見はすぐフロアの職員へおろし、改善できるところは改善し、より良い介護につなげている。	民生委員からは地域の情報を得ている。家族には年間の会議日程を知らせて参加を呼びかけている。ターミナルケアの希望があり、今その取り組みを始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事がある時は、まずは包括に相談しているが、それでも解決しない時などは、直接市役所に相談している。今年も相談させて頂き、共に問題解決に向け取組んだ。	相談事がある時は、まずは包括に相談しているが、それでも解決しない時などは、直接市役所に相談している。今年も相談させて頂き、共に問題解決に向け取組んだ。	介護認定の更新に行った時など気軽に相談出来る。困難事例や職員の勤務体制についてアドバイスを受けたり、スプリンクラーの設置についても相談ののってもらうなど協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。やむを得ない場合は、ご家族に了承を取り、経過記録を取るようになっている。また玄関は、交通量の多い道路に面しており、安全確保の面から、内側から出られないようになっているが、希望があれば職員が付き添い、外出は可能となっている。	身体拘束はしていない。やむを得ない場合は、ご家族に了承を取り、経過記録を取るようになっている。また玄関は、交通量の多い道路に面しており、安全確保の面から、内側から出られないようになっているが、希望があれば職員が付き添い、外出は可能となっている。	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、話し合った事は全体会議で報告し共有している。スピーチロックについてはお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。センター内に虐待防止委員会を設置し、より良い介護につながるよう勉強会など開催している。	虐待はしていない。センター内に虐待防止委員会を設置し、より良い介護につながるよう勉強会など開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修などに管理者等が参加しており、各職員に制度の説明など、適宜行なっている。	成年後見制度の研修などに管理者等が参加しており、各職員に制度の説明など、適宜行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者と利用者の家族に十分に時間をとって頂き、納得がいくまで説明し、不明な点が無いように理解・納得して頂いている。入居後も不明な点があれば、その都度答えるようにしている。	契約の際は、利用者と利用者の家族に十分に時間をとって頂き、納得がいくまで説明し、不明な点が無いように理解・納得して頂いている。入居後も不明な点があれば、その都度答えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( なでしこ )	ユニット名( ふじざくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族とは、意見交換がしやすい雰囲気ができている。また運営推進会議で出た意見などはすぐに取り入れ、より良い介護に結びつくようにしている。	日頃から利用者や家族とは、意見交換がしやすい雰囲気ができている。また運営推進会議で出た意見などはすぐに取り入れ、より良い介護に結びつくようにしている。	面会時や家族会などに気軽に意見が出ている。紅葉狩りや食事会と一緒に参加したいという希望があり取り入れている。各居室の日当たり条件の違いについての意見があり、布団干しやシーツの交換回数を増やすなどの工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のリーダーが集まるリーダー会議や、グループホームの各フロアで行なわれるフロア会議、全職員が参加する全体会議が行なわれ、職員の意見等聞き、皆で共有し、運営に反映させるようにしている。	各部署のリーダーが集まるリーダー会議や、グループホームの各フロアで行なわれるフロア会議、全職員が参加する全体会議が行なわれ、職員の意見等聞き、皆で共有し、運営に反映させるようにしている。	日頃からセンター長が職員に「何かありませんか？」と気軽に意見を聞いている。職員の勤務のシフトに早出を取り入れる事や、研修の希望などが出ている。高価な備品購入は稟議書にて希望が出せる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声かけ・指導をしている。また各職員の労働条件など把握し、働きやすい職場になるように心がけている。	施設長・管理者等は、各職員の良い面を把握し、より伸ばしていけるように声かけ・指導をしている。また各職員の労働条件など把握し、働きやすい職場になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会議、全体会議で適宜勉強会を開催している。また法人内外の勉強会にも、積極的に参加してもらっている。資格取得にも、積極的に推進している。	フロア会議、全体会議で適宜勉強会を開催している。また法人内外の勉強会にも、積極的に参加してもらっている。資格取得にも、積極的に推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨市にある同法人のセンターとは、勉強会等開催して、情報交換など行い、交流を図っている。また食事会なども適宜開催している。	山梨市にある同法人のセンターとは、勉強会等開催して、情報交換など行い、交流を図っている。また食事会なども適宜開催している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人とは、納得がいくまで充分にお話をし、不安なことがないようにした上で、サービスの導入をして頂いている。	利用者ご本人とは、納得がいくまで充分にお話をし、不安なことがないようにした上で、サービスの導入をして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも、各サービスについて納得がいくまで充分にお話し、不安な点が無い状態で利用していただけるようにしている。	ご家族とも、各サービスについて納得がいくまで充分にお話し、不安な点が無い状態で利用していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いをし、なるべく多くの情報を調べ、必要な医療面・物質面など見極め導入し、グループホームでの生活が快適に行なえるようにしている。	納得がいくまで話し合いをし、なるべく多くの情報を調べ、必要な医療面・物質面など見極め導入し、グループホームでの生活が快適に行なえるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士楽しく生活出来るように、職員が中に入り関わりがもてるようにしている。また利用者と職員も、家族のように温かい関係でいられるように、フレンドリーに接し、楽しくすごせるようにしている。	利用者同士楽しく生活出来るように、職員が中に入り関わりがもてるようにしている。また利用者と職員も、家族のように温かい関係でいられるように、フレンドリーに接し、楽しくすごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、月に一回新聞と手紙で利用者の様子を知らせている。また面会時や電話などでも、常に情報交換し、家族にも介護に携わっていただけるようにしている。	ご家族には、月に一回新聞と手紙で利用者の様子を知らせている。また面会時や電話などでも、常に情報交換し、家族にも介護に携わっていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に行なえるので、今までの友人や近所の方にも来て頂ける様にしている。馴染みの場所への支援は、ご家族にも介護に関わって頂きたいという観点から、ご家族にお願いしている。	面会は自由に行なえるので、今までの友人や近所の方にも来て頂ける様にしている。馴染みの場所への支援は、ご家族にも介護に関わって頂きたいという観点から、ご家族にお願いしている。	行きつけの美容院に行き、時には来てもらう利用者がいる。家族の協力でお花の会に出かけたり、頂いた花を活けてもらっている。また、習字の得意な利用者に名札を書いてもらうなど馴染みの事が継続出来るように支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまく話ができない場合は、職員が中へ入り、スムーズに会話できるように気を配っている。仲が良い方は隣同士にするなど配慮し、楽しく過ごせるようにしている。	利用者同士でうまく話ができない場合は、職員が中へ入り、スムーズに会話できるように気を配っている。仲が良い方は隣同士にするなど配慮し、楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要があれば、相談・支援に応じている。	サービスが終了しても、必要があれば、相談・支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が希望が言える場合は、ご家族とも相談し、可能な限り希望を聞き入れる努力をしている。また希望を言えない方は、これまでの生活歴や家族からの情報などを収集し、ご本人の希望に沿えるようなケアを心がけている。	ご本人が希望が言える場合は、ご家族とも相談し、可能な限り希望を聞き入れる努力をしている。また希望を言えない方は、これまでの生活歴や家族からの情報などを収集し、ご本人の希望に沿えるようなケアを心がけている。	思いや意向を伝えられない利用者は、生活歴や家族の情報をもとにして表情や行動から好きな物や好きな事を汲み取っている。その上で縫い物や編み物やカラオケなどの場づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味、家族関係など極力情報収集を行い、ご本人の今までの暮らしの把握をし、グループホームでも家で過ごしている時と同じような生活ができるようにしている。	これまでの生活歴や趣味、家族関係など極力情報収集を行い、ご本人の今までの暮らしの把握をし、グループホームでも家で過ごしている時と同じような生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな事(食事・入浴など)は決まっているが、あとはあまり決まり事を作らず、自由にのんびりと自分のペースで過ごせるようにしている。	大まかな事(食事・入浴など)は決まっているが、あとはあまり決まり事を作らず、自由にのんびりと自分のペースで過ごせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のフロア会議で各利用者のカンファレンスを行っている。また家族にも必要に応じ電話連絡を行い、意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。	月に一回のフロア会議で各利用者のカンファレンスを行っている。また家族にも必要に応じ電話連絡を行い、意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。	アセスメント表や職員が記録する経過記録の他に会社独自の介護援助計画表と支援経過記録を記入している。モニタリングは月1回、計画の見直しは3か月に1回行い一人ひとりの利用者に向けた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録には、簡単だが様子がわかるように細かく記入し、どの職員が見てもわかるようにしている。また全体の介護日誌や、引継ぎノートなどもあり、様子がわかるようにしている。	個人の記録には、簡単だが様子がわかるように細かく記入し、どの職員が見てもわかるようにしている。また全体の介護日誌や、引継ぎノートなどもあり、様子がわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度の希望などには、柔軟に対応するように心がけている。	その都度の希望などには、柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべくご近所の理容店やスーパーなど利用し、顔なじみの関係でいられるように努めている。また地域の方にも、施設の行事などお誘いをしたりもしている。	なるべくご近所の理容店やスーパーなど利用し、顔なじみの関係でいられるように努めている。また地域の方にも、施設の行事などお誘いをしたりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅と同じ主治医に家族対応で受診して頂いているが、家族対応が困難な方のため、内科・皮膚科の往診がある。夜間不眠などで精神科にかかっている方も多く、普段の様子を事細かに説明しなければ薬の処方が難しい為、職員対応にて受診を行っている。	基本的には在宅と同じ主治医に家族対応で受診して頂いているが、家族対応が困難な方のため、内科・皮膚科の往診がある。夜間不眠などで精神科にかかっている方も多く、普段の様子を事細かに説明しなければ薬の処方が難しい為、職員対応にて受診を行っている。	内科・皮膚科の往診は月1回あり、何かあった時には相談している。看護師がいるので安心出来る。受診時は家族に必要な情報を提供し、結果は介護記録や申し送りノートに記入し、全職員が共有している。薬はロッカーに保管している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、看護師が常勤で勤務している。必要に応じて看護師に相談し、適切な病院受診につなげている。	医療連携加算を取っており、看護師が常勤で勤務している。必要に応じて看護師に相談し、適切な病院受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、適宜面会等うかがっている。またカンファレンスが行われる際には出席し、情報の把握に努めている。	利用者が入院した場合、適宜面会等うかがっている。またカンファレンスが行われる際には出席し、情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ看取りは行っていないが、ご家族とも日頃から終末にむけての話し合いは常に行っている。また日々バイタルチェックを欠かさず行い、少しでも変化があれば通院等の処置をとっている。往診の内科医とも連携し、入院できる病院を紹介してもらうなどしている。	今のところ看取りは行っていないが、ご家族とも日頃から終末にむけての話し合いは常に行っている。また日々バイタルチェックを欠かさず行い、少しでも変化があれば通院等の処置をとっている。往診の内科医とも連携し、入院できる病院などへ紹介してもらうなどしている。	身体的に重度になった場合は可能であるが、常時医療が必要になった時には対応出来ない事を家族には説明してある。入浴は1階のデイサービスの機械浴槽を利用できる。家族からターミナルケアの希望が出ている為に取り組みを始めている。	ターミナルの受け入れは大変です。医療体制はもちろん職員の了解や家族の協力も必要です。その為のマニュアル作成や職員研修を行い、家族の期待するターミナルケアが行える事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで、急変時における対応等の勉強を定期的に行っている。	全体会議などで、急変時における対応等の勉強を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回避難訓練を開催。その時により、昼の設定、夜の設定にして行っている。また非常時の連絡網などの訓練もしている。ご近所の方にも、非常時のお願いはしてあり、協力が得られるようになっていく。	半年に一回避難訓練を開催。その時により、昼の設定、夜の設定にして行っている。また非常時の連絡網などの訓練もしている。ご近所の方にも、非常時のお願いはしてあり、協力が得られるようになっていく。	消防署から消火器の使い方などの指導を利用者と共に受けた。2階が居室なので非常時の階段からの避難も職員がモデルになって行なってみた。避難場所は中庭→1階の駐車場→神社と決めて消防署にも知らせてある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースに合わせて、無理強いせず、ゆったりとした介護を心がけている。利用者は一人の大人であることを充分認識し、丁寧な言葉掛け、対応を心がけている。	一人ひとりのペースに合わせて、無理強いせず、ゆったりとした介護を心がけている。利用者は一人の大人であることを充分認識し、丁寧な言葉掛け、対応を心がけている。	プライドが高い利用者など一人ひとりの個性に合わせた対応や言葉遣いに心がけている。居室のドアを開けて着替えをする利用者には声掛けしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身がはっきり希望を言える方には、希望を伺っているが、希望をいえない方には、キーパーソンに意見を伺うなどし、希望に沿った自己決定ができるようにしている。	利用者自身がはっきり希望を言える方には、希望を伺っているが、希望をいえない方には、キーパーソンに意見を伺うなどし、希望に沿った自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は、職員の配置の都合で決まっているが、それ以外は、ご本人のペースに合わせて生活できるようにしている。	食事、入浴の時間は、職員の配置の都合で決まっているが、それ以外は、ご本人のペースに合わせて生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合った服装、おしゃれができるように支援している。	ご本人の希望に合った服装、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態については、嚥下困難な方もいるため、ミキサー食にしたり、きざみにしたりと、その方に合った形態で提供している。お手伝いできるところは、利用者様にもして頂き、一緒に食事の準備・片付けをするようにしている。	食事形態については、嚥下困難な方もいるため、ミキサー食にしたり、きざみにしたりと、その方に合った形態で提供している。お手伝いできるところは、利用者様にもして頂き、一緒に食事の準備・片付けをするようにしている。	献立表は会社の栄養士が作成している。朝の食材の買い出しは近くのスーパーへ利用者と共に行っている。エプロンを掛けて茶碗洗いを元気にしている利用者が見られた。水分にとろみをつけるなど食事の形態が工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、本社の栄養士が考えた献立を調理している。高齢者の栄養を考慮した献立であり、利用者の嚥下状態に合わせた献立を提供している。	献立は、本社の栄養士が考えた献立を調理している。高齢者の栄養を考慮した献立であり、利用者の嚥下状態に合わせた献立を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、できないところは手伝っている。近所に歯科もあるので、何かトラブルがあれば、すぐ通院もできるようになっている。	毎食後口腔ケアを行ない、できないところは手伝っている。近所に歯科もあるので、何かトラブルがあれば、すぐ通院もできるようになっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。なるべくトイレで排泄できるように支援している。	時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。なるべくトイレで排泄できるように支援している。	18名中、布パンツで自立している利用者は2名で昼夜オムツ使用者は2名である。自分でトイレに行けるが介助が必要な人、もじもじと尿意のサインを出す人、時間を見て声掛け誘導する人など一人ひとりに合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を摂ったり、水分を多く摂取したりしている。それでも便秘があるようなら、主治医に相談し、下剤など処方していただいている。	繊維質の多い食事を摂ったり、水分を多く摂取したりしている。それでも便秘があるようなら、主治医に相談し、下剤など処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は、元気な方でも転倒などの危険性があるため、時間だけは職員の多い時間と決めているが、回数はご本人の希望に合わせて、毎日入浴でも可能です。	入浴時は、元気な方でも転倒などの危険性があるため、時間だけは職員の多い時間と決めているが、回数はご本人の希望に合わせて、毎日入浴でも可能です。	毎日午後のおやつ終了後に入浴している。一人が週3回は入浴している。拒否者は家族の協力を得たり、デイサービスの大きな浴槽に勤めるなどの工夫をしている。入浴剤を何種類も用意して楽しんでいる	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(なでしこ)	ユニット名(ふじざくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も各自の自由だが、夜間不眠で困っている方などは、精神科を受診して頂き、その方にあった眠剤などを処方していただくようにして、安眠につなげている。	就寝時間も各自の自由だが、夜間不眠で困っている方などは、精神科を受診して頂き、その方にあった眠剤などを処方していただくようにして、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書などをしっかり読み、何の薬かをしっかり把握するようにしている。また不明な点は、看護師に聞いたり、本で調べるようにしている。	薬の説明書などをしっかり読み、何の薬かをしっかり把握するようにしている。また不明な点は、看護師に聞いたり、本で調べるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事は積極的にやっていたくようにしている。認知症があるので、なかなかじっくりと取組めない事も多いが、職員は励ましたり手伝ったりしながら支援しています。	ご本人の得意な事は積極的にやっていたくようにしている。認知症があるので、なかなかじっくりと取組めない事も多いが、職員は励ましたり手伝ったりしながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩などは日課であり、天気が良ければ出かけるようにしている。また季節のお花見や初詣、食事会などにも利用者と職員とで出かけている。遠い場所へは、ご家族にお願いしている。	買い物、散歩などは日課であり、天気が良ければ出かけるようにしている。また季節のお花見や初詣、食事会などにも利用者と職員とで出かけている。遠い場所へは、ご家族にお願いしている。	外気浴を兼ねて、中庭のプランターで野菜や花作りをしている。近くのスーパーへの食材の買い出しも良い散歩の機会になっている。1ヶ月に1度は希望を取り入れて夕食に行っている。お寿司の希望が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者がいない為、お小遣いは事務所の金庫にて一括管理している。金銭管理ができる利用者であれば、ご本人が管理することも可能です。	金銭管理ができる利用者がいない為、お小遣いは事務所の金庫にて一括管理している。金銭管理ができる利用者であれば、ご本人が管理することも可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、いつでも支援しています。	電話・手紙の希望があれば、いつでも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾をし、温度も適温になるように気をつけている。車椅子の方も多いため、通路は余分なものを片付けて、広々とした雰囲気となるように心がけている。	共有スペースには、季節感のある装飾をし、温度も適温になるように気をつけている。車椅子の方も多いため、通路は余分なものを片付けて、広々とした雰囲気となるように心がけている。	台所の近くに食堂があり、離れた所にくつろげるソファがある。そこから中庭に出られる。廊下の壁には利用者の合同作品や行事の写真が飾られてある。必要以上の張り紙はなく落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、一人ひとりになれる空間は無いが、思い思いに各自で過ごされており、利用者同士で楽しく過ごされている。	共有スペースには、一人ひとりになれる空間は無いが、思い思いに各自で過ごされており、利用者同士で楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具など持ち込んで頂き、家にいるのと同じように、リラックスして過ごしていただけるようにしている。	ご本人の使い慣れた家具など持ち込んで頂き、家にいるのと同じように、リラックスして過ごしていただけるようにしている。	ダンスと机と椅子は用意されている。他は持ち込み自由であり、個々の好みの居室になっている。ベッドでなく、畳の上に布団を敷いている利用者もいる。また、位牌を持参し仏壇の様に水をあげている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームの玄関は、安全面を考慮して、中からは出られないようになっているが、共有スペースや各居室などは、バリアフリーで自由に行き来ができるようになっており、思い思いに過ごされている。	グループホームの玄関は、安全面を考慮して、中からは出られないようになっているが、共有スペースや各居室などは、バリアフリーで自由に行き来ができるようになっており、思い思いに過ごされている。		